

第21集 疑問文練習ワーク I

《いつ・どこ・だれ・なに 編》

ことばのテーブル100枚プリント第21集「疑問文練習ワーク I」をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この教材は、疑問文への気づきを促すことを目的としたものです。この「疑問文練習ワーク I」では、「いつ」「どこ」「だれ」「なに」の疑問詞を使った疑問文をテーマとしています。それらの文に繰り返し触れることを通して、疑問詞や助詞、そして疑問文の文型に対する認識を育てます。

【構成】※「課題・問題リスト」参照のこと。

◎問題は、I. 疑問詞選択課題(25問)、II. 助詞穴埋め課題(25問)、III. 単語配列課題(25問)、IV. 疑問文作成課題(25問)、で構成されています。

● I～IVの各25問は、同じテーマ(出来事)の問題が、形式を変えて繰り返し出題されています。

● I～IVの各25問は、奇数番号の問題が丁寧体、偶数番号の問題が普通体の会話文になっています。疑問を表す助詞の違い(丁寧体は「～か?」、普通体は「～の?」)に触れる目的があります。

● 問題は、すべて、漢字かな交じり文で表記されていますが、漢字にはすべてルビが振られています。

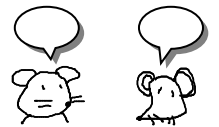
【使い方】※「疑問文練習ワーク I の組み立て」および「ワークの使い方」参照のこと。

I. 疑問詞選択課題 (【質問のことばに○をつけよう】)

応答に対応した質問となるように、疑問文中の疑問詞(いつ・どこ・だれ・なに)を選択して、○をつけます。

II. 助詞穴埋め課題 (【□の中に助詞を入れよう】)

応答に対応した質問となるように、疑問文中に適切な助詞を、書き入れます。



III. 単語配列課題 (【ことばをならべよう】)

応答に対応した質問となるように、解答例にならって、単語を配列し疑問文を作ります。

IV. 疑問文作成課題 (【質問の文を作ろう】)

応答に対応した質問となるように、解答例にならって、疑問文を作成します。

* ワークの進め方としては、課題 I、II をまず行い(I、II に難易度の差はありません。)、その後、課題 III の「単語配列」で疑問文の文型に慣れ、さいごに、課題 IV で、疑問文の自力作成に取り組んでいただければと思います。

【対象】この教材を開始するにあたって、お子さんに以下の能力が必要です。

①文字能力に関して: 特殊表記を含めたひらがな単語～単文の読解能力が必要です。

また書字については、ひらがな文字の書字能力が求められます。

②語彙能力に関して: 日常基本単語についての一定の理解力があることが望めます。



【この教材の目的と意義】 * 詳しくは「ワークについての考え方」をご参照ください。

①疑問詞への気づき: 疑問詞の存在とその違い(種類)、そして役割に対する気づきを促します。

②助詞の役割の認識: 疑問文を通して、助詞の役割に対する認識を高めます。

③疑問文の文型の習得: 疑問詞を使った疑問文の文型に慣れ、日常会話での運用を促します。

☆ことばのテーブル100枚プリントについて

ことばのテーブルでの指導の中で、企画・制作された教材集です。ことばのテーブルでは、この教材集を指導室での学習や家庭で行うホームワーク教材として使用しています。

※教材集の無断複製・販売は、ご遠慮ください。

葛西ことばのテーブルは、発達障害や言語障害の方のための学習室です。

《企画・製作 言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル》

●企画・制作責任 三好純太 制作スタッフ: 島本佐保

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西5-1-3 第6山秀ビル301

TEL/FAX (03)3687-3158 E-mail: QYT07571@nifty.ne.jp

□この教材集に対するご意見・ご感想・ご要望をお聞かせください。